

西村直之RSN代表理事著 「ギャンブラーはうそつきか？」

日本評論社が2月25日に発売した隔月雑誌「こころの科学」3月号（通巻156号、税込1300円）の特別企画「うその心理学」の中で、「ばんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワーク」（RSN）の西村直之代表理事が「ギャンブラーはうそつきか？」という論文を発表した。

論文によれば「ギャンブリング」をする人もしない人も都合が悪いことがあればうそでごまかすことには変わりないが、「問題ギャンブラー」になるとギャンブラー特有のうそのパターンが現れる。

問題ギャンブラーの検査にLie/bet questionnaireというテストがあり、設問は、①あなたはこれまでにますます多くのお金を賭ける必要を感じましたか？②あなたはこれまでにあなたの大切な人にどうか、うそをつかねばならないことがありましたか？——の2問だけ。

この2間に該当すれば問題ギャンブラーである可能性が高く「問題ギャンブラーのうそと隠し事は、ギャンブリング行為の問題化の重要な指標として位置づけられている」という。

ギャンブリング行為が問題化していくと、①ギャンブリングの資金を手に入れるため②ギャンブリングをしていることを隠すため③ギャンブリングの不都合な結果を隠すため——うそを繰り返す。問題化の初期段階においては、

うそは「ギャンブラーにとって不愉快な状況や感情（非難、疎外、詰問、自尊心の傷つき、自責感、罪悪感）を回避するための手段であり、「その場を縛るための無計画で単純なうそや隠蔽が用いられる」。そして問題が大きくなるにつれて「ギャンブリングができなくなる」とを回避するためのうそに変化していく」そうだ。

「こつそり重ねた借金が家族にばれてしまい、家族が返済を肩代わりすることになった時でも、借り入れ先を一ヵ所だけは隠す問題ギャンブラーは多い。理由を聞くと、借りられなくなるとギャンブリングができなくなるからだと言う。多重債務で返済不能な状態にあり、すでに借り入れ不能となっている現実の深刻な状況は、ギャンブリングで勝てば解決できる、だから、ギャンブリングを手放せない」と言うのである。

そして、行方をくらましたり自殺をほのめかして親に肩代わりさせたり、実際死に至つたり、さらに「ギャンブリングを続けるために、詐欺や横領などの刑法レベルのうそを繰り返す。家族や援助者向けのレポートを掲



「こころの科学」3月号
(日本評論社発行、通巻156号)

問題ギャンブラーの 自分自身へのうそ

問題ギャンブラーが自身の問題から目をそらすためのうそや不正直な行動は、依存問題では“否認”と解釈される心理的防衛機制の一

種で「私は問題ではない」(第1の否認)、「私はギャンブリング（または借金）の問題しかないと」「ギャンブリングさえしなければ問題はない」(第2の否認)など、「問題と自己との関係の否定や、矮小化によって形成される認知や思考のゆがみである」それが酒や薬物の依存問題たりする場合もある」という。

問題ギャンブラーの家族や友人が「借金さえなくなれば」「仕事にさえ就けば」「結婚すれば」問題はなくなると根拠もなく手助けする行為も「問題ギャンブラーの間違った信念に基づく行為とさほど変わらない」そうで、周囲の人が恥や罪悪感から問題を隠すためにうそをつくこともまれではなく、「うそでも同じ」。

ギャンブラーの心理的特徴として自分は特別な力や運を持ついるという間違った信念が生まれ、その信念ゆえに、負けを取り返すためにギャンブルをするなどと理由を正当化し、勝負の興奮を得る

てしまう20代の男性」と題して、電話相談の事例を基にしたモデルケースを取り上げ、整理の方法、ゴルの設定、(RSN職員)の介入の方法などを分かりやすく解説している。

今後も「息子の財布を管理している母親」(4月)、「やめようと思いつかないで会員を脱退します」という会員の一言。大切な支援者を1人失つたという反省からだ。第46号では「RSNケーススタディ46号ではこれらを半分に抑え、もう半分に依存問題を持つ本人の家族や援助者向けのレポートを掲

ため「敗北への期待感さえ生じる」という。

「いつだってギャンブリングをやめることはできる」と言いつつギャンブリング行為を行いう理由を貪欲に探している病的心理状態によって、実際は行動のコントロールができないくなっていくのである。その結果、意図はしなくとも生活そのものが他者・自己へのうそに満ちたものとなってしまうのである」問題ギャンブラーの家族や友人が「借金さえなくなれば」「仕事にさえ就けば」「結婚すれば」問題はなくなると根拠もなく手助けする行為も「問題ギャンブラーの間違った信念に基づく行為とさほど変わらない」そうで、周囲の人が恥や罪悪感から問題を隠すためにうそをつくこともまれではなく、「うそでも同じ」。

問題ギャンブラーの家族や友人が「借金さえなくなれば」「仕事にさえ就けば」「結婚すれば」問題はなくなると根拠もなく手助けする行為も「問題ギャンブラーの間違った信念に基づく行為とさほど変わらない」そうで、周囲の人が恥や罪悪感から問題を隠すためにうそをつくこともまれではなく、「うそでも同じ」。

問題ギャンブラーの家族や友人が「借金さえなくなれば」「仕事にさえ就けば」「結婚すれば」問題はなくなると根拠もなく手助けする行為も「問題ギャンブラーの間違った信念に基づく行為とさほど変わらない」そうで、周囲の人が恥や罪悪感から問題を隠すためにうそをつくこともまれではなく、「うそでも同じ」。